

防虫科学

季刊

第 32 卷—III

原 著

7. 4系統のイエバエ (*Musca domestica* L.) におけるピレスロイド
感受性について 林 晃史・廿日出正美……61
8. ツノロウムシ, カメノコロウムシおよびルビーロウムシの体脂肪
中の脂肪酸, アルコールおよび炭化水素の構成 玉木 佳男・河合 省三……63
9. イソメ毒 (Nereistoxin) の1誘導体, 1,3-dithiocyanato-2-N,
N-dimethylaminopropane の生体ホモジネートおよびSH-化
合物との反応によるイソメ毒への変化 加藤 正幸……70

綜 説

- 殺虫剤の連合作用の最近の進歩と図解法 酒井 清六……79

抄 録

……………93

財団法人防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭和42年8月

防 虫 科 学

編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

内 田 俊 郎 大 野 稔 中 島 稔

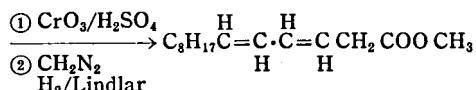
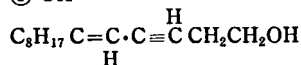
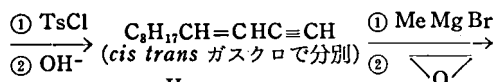
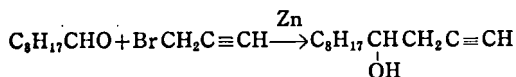
石 井 象 二 郎 井 上 雄 三 深 海 浩

投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究論文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会で定める。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
2. 論文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
3. 邦文原稿は原則として本誌規定の原稿用紙（400字詰50枚100円）を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または青線方眼紙にていねいに墨書し、原稿とは別紙とする。不完全な図はトレーシング費用を負担してもらうことがある。
5. 動植物の学名の下には_____を付ける（例：*Chilo suppressalis* イタリックとなる）。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本誌刊誌を参照されたい。
6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は論文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には~~~~~を付ける（例：(1) Stevenson E. and Wyatt G. R.: Archs. Biochem. Biophys. 99, 65）。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
8. 別刷は50部贈呈する。それ以上の希望数に対しては50部を単位とし、実質を申受ける（当分刷上がり1頁6円の計算による）。
9. 原稿の送付には送状を付し、発送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

京都市左京区北白川 京都大学農学部
農薬研究施設 石井象二郎 (77) 8111 内 4669

COOCH₃), 6.98 (2H doublet J.7cps C=CH CH₂ COOCH₃) 7.88 (2H quartet CH₂ CH=) 8.72 [(CH₂)₆]9.11 (3H triplet CH₃-CH₂) が確認された。以上の結果より methyl 3, 5-tetradecadienoate の *cis, trans* 2 異性体が考えられ、このことを確定するため以下の方法で 2 異性体を合成した。



この結果 methyl *trans*-3, *cis*-5-tetradecadienoate が上述の分析結果とよく一致し、したがってヒメカツオブシムシの性誘引物質は *trans*-3, *cis*-5-tetradecadienoic acid であると判明した。(桑原保正)

トウヒノシントメハマキの雄に対する合成誘引物質

A Synthetic Attractant for the Male Spruce Budworm Moth *Cholistoneura fumiferana* (Clem.). J. A. Findley D. R. Macdonard and

C. S. Tang. *Experientia* 23, 377 (1967).

工業用パルミチン酸は、わずかではあるが、トウヒノシントメハマキの雄に対して誘引性のあることがわかった。有効物質として 1.5kg の原料から 2mg の結晶性脂肪酸ニトリルがえられ質量分析および合成物との一致から *n*-octadecane nitril と結論された。このものおよびその同族体について、野外実験したところ、各 1mg/トラップで実際の♀ 1 匹ずつおいた場合と匹敵する誘引性が認められ、これらの物質がこの昆虫の雄に対して顕著な誘引性をもつことが明らかになった。(富田一郎)

アワノメイガの栄養、アスコルビン酸

Nutrition of the European Corn Borer, *Ostrinia nubilalis* (Hüb.) V. Ascorbic acid as the corn leaf factor. G. M. Chippendale and S. D. Beck, *Ent. Exp. & Appl.* 7, 241, 1967.

アワノメイガを人工飼料で無菌的に飼育する際、完全に成育させるため、植物さく汁の乾燥物が必要であり、この植物中に含まれる未知の要因を leaf factor と呼んでいた。leaf factor を追究した結果、アスコルビン酸であることが明らかになった。一方小麦胚芽を飼料に加えると幼虫の成育がよいことから、成育を促進する他の因子が小麦胚芽に存在するように思われる。(石井象二郎)

昭和42年8月25日印刷 昭和42年8月31日発行

防虫科学 第32巻—III 定価 ¥ 500.

個人会員 年1000円 団体会員 年2000円 外国会員 年U.S.\$6

主幹 武居三吉 編集者 石井象二郎
京都市左京区北白川 京都大学農学部

発行所 財団法人 防虫科学研究所
京都市左京区吉田本町 京都大学内
(振替口座・京都 5899)

印刷所 昭和印刷
京都市下京区猪熊通七条下ル

“SCIENTIFIC PEST CONTROL”
BOTYU-KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Syunro UTIDA, Minoru OHNO, Minoru NAKAJIMA,
Shoziro ISHII, Yuzo INOUE, Hiroshi FUKAMI

CONTENTS

Originals

7. Sur la sensibilité au pyréthroïde chez la mouche domestique (*Musca domestica* L.) des quatre colonies.
Akifumi HAYASHI et Masayoshi HATSUKADE.....61
8. Fatty Acids, Alcohols and Hydrocarbons in the Body Lipid of *Ceroplastes pseudoceriferus* Green, *Ceroplastes japonicus* Green, and *Ceroplastes rubens* Maskell (Homoptera: Coccidae)
Yoshio TAMAKI and Shozo KAWAI.....63
9. The Conversion of an Insecticidal Compound, 1,3-dithiocyanato-2-N, N-dimethylaminopropane, to Nereistoxin
Masayuki KATO.....70

Review

- Recent Advances and Graphic Analysis of Joint Action of Insecticides.
Seiroku SAKAI.....79

Abstracts

.....93

Published by
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL
Kyoto University
Kyoto, Japan